

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892700154		
法人名	株式会社榎戸工務店		
事業所名	グループホームE☆ホーム		
所在地	茨城県筑西市茂田1396番地3		
自己評価作成日	2022年1月8日	評価結果市町村受理日	2022年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JirgvsyoCd=0892700154-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自宅で生活しているような、普通の暮らしの実現に向け、またご家族様には実家のように気軽に訪問いただける、そんな家族愛に満ちたホームを目指しております。認知症の諸症状を個性とし、温かく見守り、楽しい体験をより多く持てるよう、また利用者様の生活力が維持できるよう、お手伝いさせていただきたいと考えており、コロナが落ち着いたので、2021年11月25日から、国が定めた条件を面会するご家族様に職員が確認してから対面面会を再開しましたが、オミクロン株の再流行により、12月26日に対面面会は一旦終了。再び、面会制限、外出制限をする状況で、利用者様の個別に合わせ、ホーム内での楽しみ発見できるよう工夫をして対応しております。また、ラインの活用によりご家族様と身近につながりを作り、好評を得ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の工務店が開設したホームで、地域との関係も良く、旬の野菜や初午の赤飯、大鍋で郷土料理のしもつかれの差し入れが届く他、災害訓練と一緒に炊き出しをするなど、地域に溶け込んでいる様子が窺える。新型コロナワクチン接種に関する相談を受け、市への問合せを手伝ったこともある。コロナ禍で面会に制限があっても利用者に大きな変化はなかった。11~12月は感染対策の上、居室で面会でき、とても喜ばれた。利用者同士、会話や合唱、縫物などの趣味に勤しみ、午後は昼寝をするなど、思い思いの生活ができていようである。職員も家族愛を基本とし、利用者の思いをくみ取ることの大切さを感じながら支援している。***新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族愛の理念のもと、利用者様も職員もご家族様もひとつの家族構成員として安心安全に生活できるよう、一人ひとりの個性に合わせ、お手伝いをさせていただいております。	家族愛という理念を大切にし、職員も家族の一員と捉え、出勤時は「ただいま」、退勤時は「行ってきます」と挨拶している。利用者は「お帰りなさい」と迎えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの為、外出行事は中止し、地域との交流は自粛しております。介護相談や入退所に関しては、十分な感染予防の上、個別対応しております。	利用者と地域住民の直接的な交流はできていないが、野菜やバナナを届けてくれたり、初午には赤飯や大鍋で郷土料理のしもつかれの差し入れがあった。新型コロナワクチン接種では、人数調整分として近隣住民数名と一緒に接種し喜ばれた。3回目の摂取は終えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	コロナ感染予防の為、自粛しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、市からの指導で書面での実施。	運営推進委員の副区長・民生委員・元施設長・市職員・全家族に利用者の状況を書面で報告し、返信も多く寄せられる。返信内容は議事録としてまとめ、全員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の指導に沿って、月1回の状況報告。必要に応じて随時、書面等で報告しております。	毎月利用状況を報告し、隔月で運営推進会議の報告をしている。集団指導がオンラインで開催された。市役所への訪問はできるだけ控えているが、気軽に相談できる関係は構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会、申し送り時を活用し、意識して行動できるように、身体拘束のみならず、言葉遣いや表情、態度なども常に指導しております。	2~3ヶ月に1回、適正化委員会を開催し、議事録を作成している。病院でつなぎ服を着ていた方の利用が決まり、つなぎ服についての話し合いをした。現在は普通の洋服を着用し、落ち着いた生活を送ることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会が開催できないため、各自に進んで学ぶ指導をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様皆さんがしっかりされており、経済的にも心配な方はいません。職員には研修や資格取得などを通して、知識の必要性を進めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に分かりやすく詳細に説明を行ない、ご理解、納得をいただいております。入所後も随時、書面やオンラインなどにより、解消に努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートにより意見を求めています。ありませんでした。意見には真摯に取り組んでいきたい。	一時再開していた家族との面会を再び制限中であるが、毎月の請求書に様子を知らせる手紙を同封したり、動画や写真をLINE等で送り、家族の反応は良い。日常的に避難口から外に出たり、一緒に廊下を歩くなど、避難訓練やリハビリを生活の中に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見やアイデアが出やすい環境づくりをしている。利用者様やご家族様にとって良い事や職員にとって働きやすい提案は聞き入れられている。	感染対策として会議は開催せず、連絡や報告は業務の連絡票や申送り等で共有を図っている。利用者同士のコミュニケーションが密になりやすいことから、職員の発案で、テーブルを増やし、配置換えをして適度な距離を保つ工夫をした。自己評価に基づく個人面談を行い、技術の向上やレベルアップに繋げている。個人学習ではレポートを提出し、職員の学習状況が把握できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生については地域の事業所さんの水準よりアップを心掛けている。職員には自己評価を毎月実施、報酬に反映させている。職員の意識改革介護力アップに向け、個々の能力に合わせた指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、施設内外の団体での研修は難しく、日々の業務を通しての現地指導、研修資料を通しての個人学習を行っております。コロナが収束して安心安全に研修に参加できる日を願っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、一部、電話やラインでの意見交換、状況相談にとどまる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集。出来る限り施設見学をしていただき、面接をし、ご本人様やご家族様の不安や要望などを聴き取り、少しでも不安感を取り除けるよう工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ、ご家族様の思いを伺っております。傾聴共感をもって不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査や面談により、ご利用者様やご家族様に提案し、ご理解をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、共に生活する家族の立場に立って、日常生活が送れるよう努力している。見守ることも大切にし、時間がかかっても自分で出来る幸せを感じてほしいとの考えのもとに支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にとり、利用者様の気持ちを代弁したり、ご家族様に事前説明と了解のもとにラインで近況報告、写真や動画を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別対応。コロナの為、国の定める基準をもとにガラス越しの面会やテレビ電話を活用。11月25日から12月26日まで実施いたしました。	コロナ禍前は、友人や知人の訪問があったが、現在はキーパーソンとのテレビ電話等が中心。新聞を読む方はいるが、チラシやカタログに関心を示す方はいない。理美容は、資格を持つ職員が担当しており、器具代(300円/年)の負担のみで、家族から喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの個性を把握し、利用者様同士で協力や助け合える関係の構築に努め支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、療養型入所の利用者がおりましたが、ご家族様の希望で回復時には再入所を受けたり、退所後も随時、ご希望や相談は受け入れております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や仕草などから、ご本人の気持ちや思いを汲み取るようにしている。	コミュニケーションが取れにくい方には、声かけや表情、動きから思いをくみとり、職員間で情報を共有している。面倒見の良い利用者があり、その方のかけ声で他の利用者も同じ行動をとれていることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集や共に生活するなかで思い出話や生活習慣等を観察やコミュニケーションから把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や仕草、行動などを観察し、職員間で共有。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が利用者との関わりのなかで、変化や発見からカンファレンスに繋ぎ、ケアマネージャーがご家族様や主治医との意見をもとにケアプランを作成。ご家族様にご納得いただいている。モニタリングも3か月に1回実施し、プランに反映している。	ケアマネや管理者が利用者や家族からの要望を聞いてプランを作成し、家族に説明して同意を得ている。長期・短期目標に向けたプランに沿って支援し、経過記録に記している。黒・赤・青の3色のボールペンと緑・ピンクのマーカーを使い分け、特記事項をわかりやすくする工夫がされていた。職員は、気付きをその場で経過記録に残すようにしている。ケアマネが記録と職員の意見から支援経過を記録し、3ヶ月毎にモニタリングして、次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録色遣いの工夫。注意事項にはマーカーを使用し、見やすくしている。記録の書き方についても、随時指導継続し、分かりやすく正確な情報を申し送れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせ、個別に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、自粛や制限もあるが、管理者対応で野菜の差し入れ等の協力を同じように受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は2か所。歯科医師の往診も受けている。2週間に1回の歯科医院の口腔ケアを受けている。西部メディカルや協和中央病院とも連携は良い。	2ヶ所の医院からの往診を受け、内容を家族にLINE等で伝えている。専門科を受診する際は家族が付き添い、看護師が日ごろの様子を文書で医師に渡すこともある。緊急時は医師の指示を受けて対処している。訪問歯科の口腔ケアを全員が受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員兼看護師の判断により医師、病院との関係良好		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの関係も良好で電話であったり、時には面会し退院の指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護支援専門員兼看護師と24時間オンコールの実施。緊急時には対応している。	ひとり一人違うのでマニュアルは作成していない。契約時に家族から口頭で希望を聞いているが、状況に思いが変化するので、その都度、医師と家族と協議の上、方針を決めている。家族が付き添いホームで点滴を受けている方がいたが、その後自宅に戻られた。その場に合わせた対応が一番だと考えている。看護協会の資料を基に伝達講習を行った。看護職員がいることは、職員の不安軽減になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各ユニットに配置、看護師のオンコールにより指示をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体、榎戸工務店に炊き出し設備あり、市議会議員でもある施設長のため地域の支援体制には期待できる。避難訓練も実施しており日常的に避難口も利用し慌てないよう出入できるようになってきている。	年2回の避難訓練は、設備業者も参加して行っている。日々の生活の中で、避難口から散歩に出るなど自然に訓練を取り入れているが、非常口に段差があり危険を感じることもある。火元から遠い場所に誘導するなど、日ごろから職員間でも話し合っている。備蓄は食料品の他、毛布などの寒さ対策がされ、発電機は本社の工務店が常備している。自然災害に対しては比較的安全な場所で、平屋で炊き出し設備も整っており、非常時には地域の方の受入れも可能である。	避難口の階段に可動式のスロープ等を用意し、車いすでも安全に通行できるようにすることが望ましい。本社の工務店に近く、支援体制はあるが、地域の消防団との連携を図り、夜間にも備えることを検討していただきたい。また福祉避難所の確認、家族への周知についての検討も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、職員間の会話も指導し節度ある言葉遣いができている。	特に、職員の声の大きさに注意し、威圧的に感じないような声のトーンを指導している。聞こえにくい方に対しては耳元で静かに話すようになっている。業務中に職員間のプライベートな会話はしないなど職員の意識のレベルアップを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にとり、利用者様の思いや希望を汲み取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを守るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んだり、個人のこだわりは尊重している。おやつをバイキングにして選んでもらうこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味見、後片付けなど、職員とともに出来る方は一緒に参加されている。	看護師が1週間分の献立を作成するが、畑の野菜を収穫したり、旬の野菜をいただいた時には、臨機応変に献立を変更し、内容を記録している。下ごしらえや味見、下膳、食器拭き、片付けなどを利用者も行っている。コロナ禍での買い物は回数を減らし、限られた職員が担当している。食事に要する時間や、開始時間の変更なども個人のペースに合わせている。職員も一緒にテーブルを囲み見守りながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは利用者様に合った食材献立を看護師により指示、水分は定時のみならず常に提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き実施。利用者様同士で声かけもみられる。職員も支援し実施。歯科医院より定期的に口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ対応の方も日中はリハビリパンツや布パンツにて排泄介助を実施。排泄援助にて習慣が出来ている。個々の排泄パターンは掴めている。	日中はトイレでの排泄を支援しており、本人が拒否した時には無理強いしないが、失禁は減っている。リハビリパンツから布パンツに改善した方もいる。夜間おむつ使用の方は、排泄パターンに合わせて交換をしている。便秘対策として、繊維質の食品や乳製品を多くとり、なるべく薬に頼らないよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにより管理している。ヨーグルトや牛乳、繊維質の多い食品を心掛け、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を決めず、自ら進んで入浴できるようゆっくり自分なりの入浴ができるよう支援している。	週2～3回入浴される方が多く、午前午後、希望にあわせて支援。一人が入ると集団心理が働き、次々と希望者が出てくる。ゆずの木がある他、たくさんのゆずもいただくので、ゆず湯には何度も入った。入浴剤は月1回程度使用。色を変えたり、気分転換になっている。利用者が作った足ふきマットは、個人毎に交換している。着替えは職員と一緒に選んでいる。寒がりの利用者が入浴を嫌がったため、職員が発案し、浴室内で着脱できるようにした。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、日中の活動活発化を図っている。あくまで個人の状況による。睡眠導入剤や安定剤の服用者はなし。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導と管理により、医師や薬剤師よりの情報を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの為、ホームの中や庭での活動のみ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、自粛	コロナ禍でも、園庭で散歩やお茶を飲んだりしているが「寒いから」と外に出たがらない利用者が多くなっている。玄関の桜の花を見て「花見に行きたい」との希望があり、人が少ない早い時間に近くの公園で花見、ドライブで車窓からの花見などを検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為、自粛		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で自由。個々の希望に沿って支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた壁紙や利用者様一人ひとりに聞き取りをしながら、空間づくりに努めている。	こまめな換気を心掛けており、利用者には「寒いから閉めて」と言われることがある。玄関には花が飾られ、左右の水槽に金魚とメダカが泳ぎ、利用者の楽しみにもなっている。玄関の椅子に座って利用者が大合唱することがあり、その姿をLINEで家族に送った。トイレのドアには花の絵を飾って目印にし、車いす対応のトイレは暖簾で仕切っている。ホールの壁際には加湿のためのタオルが並んでいた。歌を歌ったり、利用者同士で会話を楽しんだり、自由に毎日を過ごしている。家庭菜園で苗の植付けや収穫をし、今年は利用者指導のもと切干大根を作った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く置くことによって自由に居心地よく、くつろげる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時やその後も持ち込み自由となっている。	ベッドやタンスの位置は、個人の麻痺や車いすの動線に配慮した配置になるよう相談して決めている。ソファが置かれ、他の利用者と一緒に過ごす方もいる。塗り絵が得意な方は、部屋の入口に塗り絵が飾られていた。花を飾る方もおり、思い思いの部屋が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すり、バリアフリー、歩行不安定な方は付き添い見守りを徹底している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームE☆ホーム

目標達成計画

作成年月日 : 2022年3月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難口の階段に可動式のスロープ等を用意し、車いすでも安全に通行できるようにすることが望ましい。本社の工務店に近く、支援体制はあるが地域の消防団との連携を図り、夜間にも備えることを検討していただきたい。また福祉避難所の確認、家族への周知についての検討も期待したい。	近隣との交流の増大、消防団との連携、地域の福祉避難所の把握、運営主体とのかかわりを持っていく。スロープの設置。	区長さん副区長さんの協力をお願いし、年度切り替えの集会へのアポを取り、近隣、消防団との連携をつなげるようにする。可動式スロープについても、工務店設計士を含め検討していく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。